

## 現代社会学部公開講座

## 「現代の親子関係を考える」

20世紀は「子どもの世紀」と言われたが、21世紀は「親子の世紀」と言ってもいいかも知れない。「親子関係」をめぐるさまざまな問題が、今日、多くの人々の関心を集めている。本シンポジウムでは、現代の親子関係についてのいくつかのアジェンダを取り上げ、シンポジストからの報告が行われた。そのあとフロアからも活発な意見・質問が出され、熱のこもった議論が展開された。これは当日の参加者のテーマへの関心の強さを示すものであるとともに、シンポジウム報告が共同研究をベースにしたものであり、シンポジスト同士のコミュニケーション、相互の議論の理解が十分であったことにもよるものである。

この共同研究は「現代の家族問題の総合的研究」と題して、2002年度に京都女子大学から研究助成金を得て行われたものである。井上真理子が研究代表者で、加茂直樹、棚瀬一代、南野佳代、坂爪聡子の現代社会学部の諸氏に加えて、他学部から坂田由紀子（京都女子大学名誉教授）、森繁男（発達教育学部）、表真美（発達教育学部）、さらに中川淳（広島大学名誉教授、京都女子大学非常勤講師）の諸先生のご参加を得た。この共同研究の成果は、再び京都女子大学から出版経費の一部助成を得て、『現代家族のアジェンダ—親子関係を考える—』というタイトルで、2004年10月に世界思想社より出版された。（文責：井上真理子）

## 公開講座プログラム

- 開催日時 2004年7月3日（土）13：30～16：00
- 場所 京都女子大学J校舎525教室
- 挨拶 初瀬龍平（京都女子大学現代社会学部長）
- 報告 棚瀬一代（京都女子大学現代社会学部助教授<当時>、  
現在帝京大学教授）  
「育児困難と子どもの虐待」  
坂田由紀子（京都女子大学名誉教授）  
「食行動と親子関係」  
中川 淳（広島大学名誉教授）  
「親子関係の変動と家族法」  
加茂直樹（京都女子大学現代社会学部教授）  
「現代の親子関係と子育て支援」
- 企画・司会 井上真理子（京都女子大学現代社会学部教授）

## 報告概要

井上眞理子

「育児困難と子どもの虐待」 棚瀬一代氏  
カウンセラーとして虐待問題を取り扱った報告者の経験が語られた後、子ども虐待の諸類型についての説明がなされた。子ども虐待についてしばしば問題となるのは「虐待の世代間伝達」と言われる現象であるが、報告者は、被虐待経験を持つ人がこの「世代間伝達」言説のゆえに、結婚や子どもを持つことを躊躇せざるを得ないといういわば「二重の被害」に苦しむ事実を指摘している。この「世代間伝達」の発生を予防するためのカウンセラーの役割として、被虐待経験者が心を開いてその体験を語り得る関係作りの重要性が指摘された。

「食行動と親子関係」 坂田由紀子氏

「家族とは食の分配をめぐるって成立した基本的な集団であり、共食することによってその集団は維持される」という文化人類学者石毛直道氏の言葉が、報告者にとっても基本的見解であるとして紹介された。そのような視点から現代家族の食行動の問題として、「子食」、「孤食」、「個食」が取り上げられた。最後に「摂食障害」と家族との関連について、階層、地域、家族構造、家族関係等さまざまな観点からの説明がなされた。

「親子関係の変動と家族法」 中川 淳氏

現行民法においては、子の最善の利益の保護・「子のための親子法」の理念が掲げられているが、問題も存在しているとまず指摘さ

れた。実親子関係の場合では、非嫡出子の法定相続分が嫡出子の2分の1という差別が存在している。また養子制度においては、戦前の明治民法では家の後継ぎを求めするための養子制度という「家のための親子法」であったが、戦後「子のための親子法」の実現のため、養子に際して家庭裁判所の許可が必要となった。その点においては前進であったが、戦争により生じた戦争孤児の問題は放置された。このような戦争孤児の救済に有効であるのは「特別養子制度」であるが、実現したのは昭和62年になってからであった。一般に日本の親子法には、血縁絶対主義という問題性があり、生活の共同こそが親子関係の基礎となるべき、という主張がなされた。

「現代の親子関係と子育て支援」 加茂直樹氏

現代日本の家族と子どもをめぐる意識の変化について、先ず紹介が行われた。結婚して家庭を持つことがかえって、個人にとってもリスクを増す可能性のある時代になってきているという認識のもと、結婚は他のライフ・コースと平行な選択肢の一つとなる。

パラサイト・シングルや非婚化はその結果生じる。また少子化が問題となっているが、子産み・子育ても選択の対象となり、選択・非選択の決定要因として情緒的・社会的・個人的という三つの価値と条件依存、子育て支援という二つの条件があることが柏木恵子氏を引用しつつ指摘された。最後に子育て支援というのは、子どもの価値・権利が尊重される社会を作ることだという主張がなされた。